

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072100484
法人名	社会福祉法人 同仁会
事業所名	グループホームカルフル・ド・ルポ印南
所在地	和歌山県日高郡印南町山口150番地 (電話) 0738-42-8080

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年8月17日	評価確定日	平成21年9月2日

## 【情報提供票より】(21年7月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 10.6人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 240,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保 日高総合病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな田園地帯にある2ユニットのグループホームで、リゾート風な外観の建物の庭にはパラソルやテーブル、ベンチ等が設置され、明るく開放的である。管理者、職員の信頼関係は良好でチームワークよく業務に取り組んでいる。利用者がさらに自然の中で季節感を身近に感じられるようにと、休耕田を借り受け、稲作体験を取り入れており、職員が田植えや刈り取りをするのを一緒に楽しんでいる。利用者の個々の楽しみとして手芸、書道などの趣味活動を職員は支援している。一方のユニットには犬を飼っており、入居者のアイドルとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は①市町村との連携、②栄養摂取や水分確保の支援の2点が課題としてあげられたが①については、情報交換の場でもある町主催の地域ケア会議に参加し、担当者との連携をとって質の向上に取り組んでいる。②については、専門家のチェックはまだであるが食事のバランスに配慮している。また水分についてはさらにこまめな摂取を心掛け2点とも一定の改善がみられる。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価は朝の申し送り時に管理者が職員にヒアリングして、それを管理者がまとめた。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度、開催予定であり、日常のケアや評価や行事の報告等が行われている。その中で民生委員から梅の花見の提案があり花見用の畑の開放など協力が得られた。同じく出席者からの提案で、稲作体験で得られたワラでしめ縄作りも実現した。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>玄関の入ったところに苦情受け付け箱を置いているが意見はほとんど出ないため運営上に活かされていない。質の向上という観点からも意見を出しやすくする工夫が望まれる。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、休耕田での稲作体験を行ったりするも『利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けることを大切にしたい』といった取り組みには至っていない。事業所が地域の一員として地域活動を行い、人々と積極的に関わり、役割を担うような交流が望まれる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けるという観点から『印南町の中で ゆったりくらしたいな、私らしく過ごしたい、満足したいよ』という事業所独自の運営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員間で毎朝の申し送り時などに理念に沿った話し合いをしている。また共用空間の目に触れるところに理念を掲げており職員は常に理念を意識してケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一部の利用者は地域の文化会に作品を出したり、借りた休耕田での稲作体験を行うも事業所全体として地域との交流には至っていない。	○	日常生活において『利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続ける事を大切にする』ということを念頭に、事業所の取り組みとして地域活動へ参加し、交流することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員とも評価に対してその意義を認めており、過去の外部評価で指摘された点については可能な限り改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで得られた意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員、町担当者、地域包括支援センター主任、家族等の参加で2ヶ月に1度、開催を予定している。日頃のケアおよび行事等についての報告を行い、そこで得られた意見を事業運営の中に取り入れている。年間行事については梅の花見やしめ縄作り等の意見をもらい実現した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の地域ケア会議等への参加を行い情報交換につとめ、質の向上を目指しともに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホーム便りと領収書をつけた金銭管理表を送付している。健康状態などは必要に応じて電話や文書で通知している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱を設置しているが意見はほとんどなく、家族等の意向が反映されるに至っていない。	○	ざつぱらんな意見交換ができるような家族会の開催や、面会時や電話時に意見を出しやすい雰囲気作り等、家族等の意見が活発に表出する手だてを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このところ異動が少ないため、ほとんど影響はないが、以前新人が入った際には馴染みの職員がいっしょについて紹介してまわり利用者に混乱のないよう配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指して内部研修を年6回程度開催し参加を推奨している。今年から職員の研修の今後の目安にもするため個人別年間研修受講の記録をとり育成を計っている。また新人教育では先輩が付いてきめ細やかな指導をしており段階的に力をつけていけるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の中で事例の検討会や地域の介護状況等の把握など情報交換を行っている。NPO地域密着型サービスケアネット和歌山に入会し、今後相互実習も視野に入れて質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム生活に馴染みにくい利用者に対しては家族と一緒に宿泊してもらったり、一泊間隔でサービス利用してもらったりと工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理時や洗濯物をたたむ等簡単な作業を本人の体調にあわせて無理のない程度行うなど一方的に介護される立場にならないようにしている。また職員も人生の先輩としていろいろな場面で教わることもあり(調理や畑仕事等)、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で本人がどのように暮らしたいかの希望を聞き取り、出来る限りその生活の中で実現できるよう工夫しながらケアを実践している。意向の把握が困難な場合は本人の視点に立って家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすためにはどうすればよいかを、あらゆるところから情報を得て介護計画に反映している。本人の意向を確かめるのは勿論、それが出来ない場合でも家族等関係者からの意見や生活歴を考慮し本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月単位での見直しを行っている。状態の変化があれば随時見直し介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、本人や家族にとって安心して過ごせるよう支援し、受診時には職員の通院介助がなされている。また花見などの特別な外出支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医から月2回、法人の理事長から週1回の往診を受けていてさらに通院時、職員が付き添い適切な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化があれば家族にも十分説明し、意向を確かめながら支援している。終末期の看取りについては入所時同意書を取り、その時どき関係者で十分話し合い、方針を共有しながら取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重してプライバシーや誇りを損ねることのないよう留意している。記録類も人目に触れないところに保管し、個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、その日その日の利用者の希望でカラオケ、散歩、貼り絵、部屋でテレビを見る等思いの過ごし方が出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から一人ひとりの嗜好を調べてメニューに取り入れ たり、また行事には特別なものを用意する等、食事が楽 しみなものになるよう支援している。誤嚥等の見守りが 必要な利用者が多くなってきており職員が介助してい る。利用者の力に応じて簡単な後片づけ等も職員ととも に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	利用者の希望でいつでも対応できるように常に準備を 整えている。利用者によっては朝から入浴したり、毎日 入浴する時もある。入浴拒否する利用者にも工夫して 対応し支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの力に応じて手芸や書道、カラオ ケ、散歩の楽しみ事や野菜作り、食事の片づけ、洗濯 物をたたむ等楽しみの継続や趣味の継続を目指し、支 援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	二つのユニットの間に喫茶コーナーや椅子が設置され て周りを散歩したり、休んで話をしたりと、戸外の空気 に触れて過ごせるように配慮されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	利用者の状況を把握し、管理者、職員は鍵のかけない ケアの重要性を理解しており、日中は玄関は施錠され ていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年2回、常に夜間想定をも含んだ 訓練を実施している。また法人施設との協力体制もとれ ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしており、またバランスのよいメニューを心掛けている。水分も食事の時や、食間、レクレーション前後、入浴後と、こまめに補給している。摂取が楽しみなものとなるようヤクルトやジュース、お茶等品数を増やして工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感がつかめるように季節の花や造花、利用者が作った人形、貼り絵、書道作品等が飾られている。テーブルや椅子、ソファを配置し、不快な音、光、臭いなどにも注意を払って、ゆったり過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとり使い慣れたタンスやラジオ、テレビが置かれている。写真や本人が作った手芸作品などで飾られ落ち着いて過ごせるように配慮している。		